様式第２号（第３条関係）

行　政　視　察　等　報　告　書

令和６年３月２９日

米 子 市 議 会 議 長　様

（会派の場合）
会派名　　　自由創政
代表者氏名　渡辺　穣爾　(印)
提出者氏名　塚田　佳充　(印)
（議員の場合）
議員名　　　　　　　　　(印)

下記のとおり報告します。

記

項　　目	□現地調査　□行政視察　□要請・陳情活動 ■研修会への参加　□会議への参加
参 加 者	奥岩浩基、塚田佳充、戸田隆次
期　　日	令和６年３月２７日から 令和６年３月２８日まで
〔概　要〕（年月日・場所・内容） 令和６年３月２７日～令和６年３月２８日 リファレンス駅東ビル（福岡市博多区博多駅東１丁目１６－１４） 地方議員研究会ＣＫセミナー受講 ３月２７日　１４時～１６時３０分　「幸齢社会」実現会議：宮本講師 ３月２８日　１０時～１２時３０分　健康寿命と平均寿命　：宮本講師	
〔所　感〕 別紙のとおり	
経　　費	旅　　費＠４８，２７４円×　３人＝１４４，８２２円 取扱料金＠　　　５５０円×　　＝　　　　５５０円 受 講 料＠３０，０００円×　３人＝　９０，０００円 合　計　２３５，３７２円

別紙：研修会参加報告書

［概要］

年月日：令和６年３月２７日（水）１４：００～１６：３０

場　所：リファレンス駅東ビル（福岡市博多区博多駅東１丁目１６－１４）

概　要：地方議員研究会 CK セミナー「幸齢社会」実現会議

講師：宮本正一（医療・健康問題研究所　所長）

内　容：・認知症と向き合う「幸齢社会」実現会議について

- 会議運営要領について
- 内閣府　重要政策会議について
- 資料からわかる未来
- 抗体薬で治療しても７０％の速度で進行する早期アルツハイマー病の今後の治療研究の方向性
- 老老介護、仕事と介護

・現状把握と自治体への影響

- 地域医療情報システムによる独自試算
  現状分析、未来医療、未来福祉
- 「医療・介護関係施設」が存続できるのか
- RESAS によるシュミレーション

・政府資料を先読みして議会質疑に活かそう

- 認知症対策推進本部

・実際に質問を作ってみよう

主な質疑応答：

Q1:地域医療情報システムと RESAS の活用について

A1:例えば、人口状況や移住元自治体等を把握すると今後の政策に出来る。政策とは別に人口分布が変わるケースもあるので注意が必要（都会の終点・始点のある駅周辺地域等）。

Q2:認知症が軽度の場合に介護保険認定がとれずサービス受給出来ない場合はどうしたらよいか。

A2:法律で決められている事項だが、まずは自分が自治体のトップならどうゆう政策が可能か考えてみる必要がある。例えば、健常者と軽度認知症の方が一緒に活動出来たり集まったり出来る環境を整えてみてはどうか。

Q3:山間部に住んでいる認知症の方への支援をどうするか。

A3:山間部から街中に移住していだくのは恐らく難しいと考える、逆転の発想で巡回看護可能な有資格者を全国から募り、移動クリニックのようなもので対応してはどうか。

［所感］

高齢化社会を幸齢社会とすべく政府は重要政策と位置づけ幸齢社会実現会議を開催し、今後各自治体での対応が急がれるであろうと予見されている。いわゆる「超高齢化社会」とは、

世界基準でいうと、65歳以上の人口割合が６％から１２％になる状況を指し、欧州では約100年をかけて超高齢化社会となったそうだが、日本は1/4の僅か24年で達していたそうである。その中でも現代医学では進行を止めたり症状の回復を促すことが出来ないとされている認知症については、その症状を社会全体で理解し、支援していく体制のある政策が求められている。一方で、高齢者を支える生産年齢人口は確実に減少することが示されており、医療福祉政策のみならず、幸齢社会を実現する為に自治体において社会状況や公共サービスにはさらなる工夫が必須である。まずは政府の政策をよく理解し、その上で自治体において対策を講じていくことが肝要であり、単純に対処療法的に政策を進めていくのではなく、自治体の状況を俯瞰視し現状を把握した上で将来を予測し、政策を進なければならない。その為にも必要となるデータを分析出来る能力が自治体の担当者のみならず議会にも求められている。今回の研修では政府の目指すべき姿と地方自治体での取り組みをどのように実現可能かつ住民サービスに繋げられる議会活動が出来るかを考えるよい機会となった。米子市での幸齢社会実現に向けて会派内でも調査研究し、今後の市政に活かしていきたいと考える。

「概要」

令和６年３月２８日（木）１０：００～１２：３０

リファレンス駅東ビル

地方議員研修CKセミナー健康寿命と平均寿命

講師：宮本正一（医療・健康問題研究所　所長）

「内容」

＊健康寿命延伸プランの解説

・第１１５回社会保障審議会医療保険部会について

・平成３０年１０月２２日　未来投資会議根本大臣資料について

＊疾病予防と重症化予防

・厚生労働省の取り組みを解剖するについて

・健康日本２１を解剖するについて

＊介護予防とインセンティブ設計

・令和５年版高齢社会白書について

・私が考えるインセンティブ設計について

＊医学博士が教える健康施策

・「ダイエット」の本当の意味について

・認知症は予防ができるについて

＃主な質疑応答

Q：医療との連携の際に老人福祉法は身体的精神的配慮で暮らしを支えるとうたっていて、介護保険法は介護が必要な人を社会全体で暮らしを支えるとうたっているが、どちらを重要視した方がいいのか。

A：老人福祉法は昭和３８年施行。介護保険法は平成９年施行されており、新しい方の

法律で考える。介護保険法に尊厳が明記してあるので認知症についても理解し対処するよう考えられている。

「所感」

厚生労働省が平成３０年に社会保障審議会医療保険部会に出している参考資料に２０４０年を展望した内容で、団塊ジュニア世代が高齢者となる２０４０年を見通すと、現役世代（担い手）の減少が最大の課題。一方、近年高齢者の「若返り」が見られ、就業率が上昇するなど高齢者像が大きく変化。とあるが、本来であれば地元自治会の仕事をする方や、長年働いてきたので、後は安心して余生を暮らしたい方などいるが、年金だけでは暮らせない現状がある為、働かざるをえないのが近年の高齢者である。政府がこういった認識をしているのを見逃さず、我々地方議員は地元の現状を把握し政府に対して指摘できるよう調査研究を日頃からしなければならない。今回の研修で政府の資料や当局の意見だけだはなく、自己分析の必要性を改めて考えるよい機会となった。今後の市政に活かしていきたいと考える。

行程（会派自由創政：奥岩議員、戸田議員、塚田議員）

月　日	行　　　程	宿泊先
３／２７ （水）	11:00　　　12:10　12:36　　　12:41 出雲空港＝＝＝＝＝福岡空港＝＝＝＝＝博多駅 ＪＡＬ３５５０便　　福岡市地下鉄空港線	マースガーデンホテル博多 （博多駅筑紫口から徒歩１分） ☎092-434-1311
	◎**地方議員研究会ＣＫセミナー　「幸齢社会」実現会議**：宮本講師（午後２時から） 場所：リファレンス駅東ビル（福岡市博多区博多駅東１丁目１６－１４）（JR 博多駅筑紫口から徒歩４分）	
３／２８ （木）	◎**地方議員研究会ＣＫセミナー　健康寿命と平均寿命**：宮本講師（午前１０時から） 場所：リファレンス駅東ビル（福岡市博多区博多駅東１丁目１６－１４）（JR 博多駅筑紫口から徒歩４分）	
	16:12　　　16:17　17:30　　　18:35 博多駅＝＝＝＝＝福岡空港＝＝＝＝＝出雲空港 福岡市地下鉄空港線　ＪＡＬ３５５５便	

※　米子市役所～出雲空港間は山陰道経由（有料）で１時間程度

自由創政

地方議員研究会CKセミナー

旅費計算表

令和6年3月27日　～　令和6年3月28日

月　日	区間	鉄道路線名	区間キロ数	目的地までのキロ数	運賃	グリーン	急行料金		日当	宿泊料	
									議員1,500円	甲 14,800円	乙 13,300円
							特別	新幹線	随行1,100円	10,900円	9,800円
3/27	出雲空港～福岡空港	JAL			15,510				1,500		11,334
(水)	～博多	地下鉄			260						
3/28	博多～福岡空港	地下鉄			260				1,500		
(木)	出雲空港	JAL			15,510						
計	議員旅費			45,874	31,540	0	0	0	3,000	0	11,334
	随行旅費			0							

出席議員　奥岩議員、塚田議員、戸田議員

議員旅費	45,874 ×3名＝	137,622 円
発券手数料	2,200 ×3名＝	6,600 円
取扱料金		550 円
宿泊税	200 ×3名＝	600 円
受講料	30,000 ×3名＝	90,000 円
	合計	235,372 円